

「裏表紙」

学習のねらい：災害に強い地域づくりにするため、自助、共助、公助について考える。

（指導のポイント）

◆災害時には、消防、警察、自衛隊など、さらに近隣の方などの「助けてくれる人」がいれば、多くの命が助かり、復旧・復興が早く進むが、なにより、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを忘れないようにすることを指導する。

◆阪神淡路大震災の教訓として、自力脱出困難者のうち、77%の人を近隣住民が救出している。

自衛隊、警察、消防による救出者は、全体の19%にとどまっており、いかに近隣住民の力が大切で重要であるかを指導する。

◆災害時には、必要となる自助・共助・公助の割合は、7：2：1といわれている。

（指導上のポイント）

◆ポータルサイト「学校防災みえ」のQRコードについて紹介する。

◆トップ画面は、東日本大震災の映像や写真、証言等を見ることができ各種防災関係機関が作成したサイトを揃えているので、効果的な学習ができることを指導する。

◆家庭用防災学習サイトでは、防災クイズや防災スゴロクを使って楽しく話し合いながら防災学習ができチャレンジしてみるよう指導する。

◆学校防災みえのアドレス

<http://www.mie-c.ed.jp/gakkobosaimie/>

「自助」、「共助」、及び「公助」の理念に基づいて、みんなで力を合わせて災害に強い地域づくりをすることが大切です。
あなたが考える「自助」、「共助」、「公助」の取り組みについて書いてください。

自助

自分の命は自分で守る

- ・防災ノートで防災学習をする。
- ・ハザードマップを確認する。
- ・防災みえ.jpに登録する。 など

共助

自らの地域は皆で守る

- ・近所同士の助け合い。
- ・地域のお年寄りや障がい者を支援する。
- ・消防団に入る。 など

公助

行政、防災機関が担う

- ・地域防災計画を作成する。
- ・復興指針を策定する。
- ・公共施設の高台移転を行う。 など

●あなたが「防災の日常化」に向けて、日頃から取り組んでいることがあれば書いてください。

- 例) 家族防災会議を定期的開催する。
自然災害に関する新聞記事を収集する。
通学路の安全な場所、危険な場所を考える。

年	組	名前
年	組	
年	組	
年	組	

問い合わせ先

- ▶このノートについて 三重県 教育委員会事務局 教育総務課 059-224-3301
- ▶自然災害について 三重県 防災対策部 防災企画・地域支援課 059-224-2185

防災ノート・ワークシート(別紙)は、ダウンロードできます▶ URL <http://www.pref.mie.lg.jp/KYOIKU/HP/bosai/68638018172.htm>

自然災害の情報が載っています▶ 防災みえ.jp URL <http://www.bosaimie.jp>

防災ノート～災害から命を守る～

三重県教育委員会事務局教育総務課

〒514-8570 津市広明町13番地

電話：059-224-3301 / ファクス：059-224-2319

第8版 令和3(2021)年6月

[監修・助言]

三重大学 大学院 工学研究科

川口 淳 准教授



学校防災みえ

防災みえ.jp